健全で豊かな森林づくりプロジェクト フォローアップ委員会 自己評価シート

プラン名	円原森林づくりプロジェクト			作成日	22年	10月	20日
実施方法	☐ 単独	☒ JV	所属	岐阜中央森林組合	記入者	大西一暢	
プロジェクトの対象・目的・内容	対象（誰を、何を）	目的（どういう状態にしたいのか）					
	<ul style="list-style-type: none"> 山県市円原地内の476haの森林整備及び木材生産 森林所有者数196人 	<ul style="list-style-type: none"> 環境保全を重視する森林、木材生産を重視する森林ともに「災害に強い森林づくり」を行い、環境的にも経済的にも持続可能な森林づくりを目指す。 					
事業期間	事業内容（どのような方法で、何を行うのか）						
	<ul style="list-style-type: none"> ソフト部門は森林組合、ハード部門は民間事業者と役割分担し、両者が共同企業体を組んでお互いの得意分野を生かしながら持続可能な森林づくりを実現する。 岐阜中央森林組合は、森林所有者の取りまとめや施業地の集約化を行うとともに、プロジェクト全体の事業管理を行い、森林所有者へ利益還元を行う。 株式会社遠藤造林は、集約化された施業地において、環境に配慮しながら路網整備と高性能林業機械を活用した効率的な作業システムを構築し、健全で豊かな森林づくりを行う。 						
事業期間	平成 21 年度 ～ 平成 25 年度（ 5 年間）						
事業費 / 年度	モデル団地への国・県・市町村補助金投入額（平成21年度決算） ※職員人件費を除く						
		森林整備関係	搬出補助関係	機械導入関係	治山関係	保安林整備関係	その他
財源内訳	予算執行額（千円）	23,284	1,856	0	0	0	147
	国・県費	22,387	928	0	0	0	0
	市町村費	897	928	0	0	0	0
	一般財源	0	0	0	0	0	147
	その他	0	0	0	0	0	0
事業実績	成果指標	単位	21年度		22年度		
			計画	実績	計画	進捗	
	① 施業集約化	ha	200.0	137.0	100.0	51.1	
	② 植栽	ha	2.0	0.0	2.0	0.3	
	③ 下刈・除伐	ha	0.0	2.0	2.0	1.1	
	④ 切捨間伐	ha	5.0	13.0	5.0	8.8	
	⑤ 利用間伐	ha	21.0	4.0	34.0	1.5	
	⑥ 主伐	ha	—	—	—	2.6	
	⑦ 作業道開設（延長） w= 3.0 / 3.6 m	m	1,200 / —	885 / —	3,000 / —	550 / —	
	⑧ 作業道開設（開設コスト） w= 3.0 / 3.6 m	円/m	5,000 / —	7,898 / —	5,000 / —	7,440 / —	
	⑨ 木材生産量（モデル団地内）	m ³	1,400	345	2,400	680	
	⑩ 木材生産量（モデル団地外）	m ³	—	—	—	—	
	⑪ 木材生産性	m ³ /人日	4.0	4.1	4.3	4.1	
	⑫ 木材生産コスト（伐採～積込まで）	円/m ³	10,300	10,500	9,700	10,500	
	⑬ 高性能林業機械導入	台	—	—	—	—	
	⑭ 伐採専門チーム養成	チーム	1	1	1	1	
	⑮ 共同企業体間で協定締結	有無	協定締結	協定締結	—	—	
	⑯ 運営委員会等の開催	回数	3	3	3	3	
	⑰ 現地研修・検討会の開催（2、5年目）	回数	—	—	1	0	
	⑱ 視察・研修の受け入れ、技術交流	回数	—	0	—	0	
	⑲ 作業の技術性、効率性の検証	回数	—	0	—	0	
	⑳ 河川の濁度調査の実施	回数	—	0	—	2	
	(21) プロジェクトの周知、PR	内容	—	組合広報誌、中日新聞、市有線テレビで番組制作	—	総代会資料	
	(22) ホームページ作成	有無	—	未作成	—	未作成	
	(23) スタッフの技術向上研修等への参加	回数	—	2	—	2	
(24) 未整備森林の整備	ha	—	9.0	—	0.0		
(25)							
補足説明	<p><山県市有線テレビで、円原森プロを含む林業特集番組を制作、放送></p> <ul style="list-style-type: none"> 円原森プロを含む、山県市の林業を市民に広くPRするため、山県市有線テレビで特集番組「山県市の林業」を制作した。 企画・シナリオ制作：岐阜農林事務所AG、出演：岐阜中央森林組合、株式会社遠藤造林。 21年11月～放送開始。その後も不定期に放送された。 						

【 自己評価 】				
配点		3点	2点	1点
1 達成度	プロジェクトは当初計画どおり実施されているか	☐ 実施されている	☒ 一部未実施	☐ 実施されなかった
	当初設定した目標（生産コスト等）は達成したか	☐ 達成した	☐ 一部達成した	☒ 達成しなかった
	進捗管理（定点観測等）は実施されているか	☒ 実施されている	☐ 一部未実施	☐ 実施されなかった
	補足説明	<ul style="list-style-type: none"> ・初年度の21年度は、秋からのスタートであったこと、及び、降雪と春の長雨で実績が伸びなかった。 ・作業効率性の検証は、昨年度は稼働日数が少なく、生産性を検証できるだけのデータが得られなかった。 ・河川の濁度調査について、2年目からのスタートとなったが、県森林研究所の協力を得て調査を開始した。 ・プロジェクトの周知、PRは、森林組合広報誌をはじめ、中日新聞に掲載、地元山県市有線テレビを通じて積極的な取り組みを行った。 		
【 委員評価 】				
コメント	・別添フォローアップシート参照			
【 自己評価 】				
配点		3点	2点	1点
2 成果	木材生産の拡大が図られているか	☐ 図られている	☐ 一部図られている	☒ 図られていない
	森林環境（動植物等）の改善を確認できるか	☒ 大いに確認できる	☐ 一部確認できる	☐ 確認できない
	山地災害発生を抑制する工夫ができたか	☐ 工夫できた	☒ 一部工夫できた	☐ 工夫できなかった
	補足説明	<ul style="list-style-type: none"> ・事業地が奥地であり、降雪と春の長雨で稼働日数が少ないと、悪条件が重なったが、可能な限り木材生産を行った。 ・未整備人工林の間伐を行うことで暗く不健全な林が、明るい林となり、林分としても下層植生も環境の改善が図られた。 ・作業道の切土高は、極力低くするよう努め、作業道開設による災害危険性を最小限に抑えることで壊れにくい作業道開設に努めた。ただ、集排水処理で試験的に施工した止水板は、車と機械の通行で痛みが早く、工夫して取り入れたつもりであったが、改善が必要と感じている。 		
【 委員評価 】				
コメント	・別添フォローアップシート参照			
【 自己評価 】				
配点		3点	2点	1点
3 効率性	コストや業務量に見合った成果が得られたか	☐ 得られた	☐ 一部得られた	☒ 得られていない
	効率的な実施体制で推進されているか	☒ 推進された	☐ 概ね推進できた	☐ 推進できていない
	積極的に民間活力を活用しているか	☒ 活用できた	☐ 一部活用できた	☐ 活用できなかった
	補足説明	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフト部門は森林組合、ハード部門は民間事業者（株式会社遠藤造林）と役割分担し、お互いの得意分野を生かして事業を進めることができた。 ・施業集約化は、椿森林づくりプロジェクトの経験を生かして順調に進めることができた。 		
【 委員評価 】				
コメント	・別添フォローアップシート参照			
【 自己評価 】				
配点		3点	2点	1点
4 妥当性	地域住民（森林所有者）のニーズを反映しているか	☒ 反映している	☐ 一部反映している	☐ 反映していない
	プロジェクトの計画内容（箇所・時期等）は適当であったか	☐ 適当であった	☒ 一部適当でなかった	☐ 適当でなかった
	期待する人材は養成されたか（伐採専門チーム等）	☐ 養成された	☒ 一部養成された	☐ 養成されていない
	補足説明	<ul style="list-style-type: none"> ・私有林はあくまでも森林所有者個人の森林であり、事前に打ち合わせを行い、森林所有者の意向に沿って森林整備を行った。 ・事業計画をJVの目標値として、高い目標を掲げたため、100%の達成は困難としても、目標に近づけるよう努力する。 ・株式会社遠藤造林は、作業道の開設技術が向上した。岐阜中央森林組合は、作業道の設計監理技術が向上した。 ・伐採専門チームは、1チームを養成済みだが、大径木を伐採できる技術者がいないので、将来の主伐に備えて伐採技術者の養成に努める。 		
【 委員評価 】				
コメント	・別添フォローアップシート参照			

【 自己評価 】			
配点	3点	2点	1点
関係者(住民・所有者・従事者)の満足度は向上したか	☐ 向上した	☒ 一部向上した	☐ 向上しなかった
選定委員会、研修等における指摘事項は十分対応できたか	☐ 対応できた	☒ 一部対応できた	☐ 対応できなかった
上記以外にも成果向上のための改善余地はあるか	☐ 余地がある	☒ 一部余地がある	☐ 余地がない
5 発展性	補足説明 ・森林所有者が間伐後の林分を見て、森林所有者の満足度は向上している。 ・作業道開設により森林所有者の自己山林への意識の高揚を図ることができた。 ・ただし、まだ昨年度の精算(利益の還元)ができていないので、早急に対応する。 ・森林所有者に利益を還元し、森林所有者の林業意欲の向上を図る。		
	【 委員評価 】		
コメント	・別添フォローアップシート参照		

自己評価(集計)				
評価集計	1 達成度	2 成果	3 効率性	
	6	6	7	
	4 妥当性	5 発展性	合計点	
	7	6	32	
	総合評価	B		
総合評価：A＝現状維持 B＝充実・拡大 C＝要改善 (配点区分：A＝45～36点 B＝35～26点 C＝25～15点)				
補足コメント	・事業計画書に基づき、22年度以降は作業道の計画的な開設及び素材生産量の増大に努める。 ・事業地までのアクセス道路が狭く、2tトラックで小運搬する手間で素材生産費が高む分、県森連等との連絡を密に取り、製材工場等のニーズに応じた造材、選別を行う。			

フォローアップ委員会による総評			
推奨方針(案)	☐ 現状維持	☒ 充実・拡大	☐ 要改善
コメント	・別添フォローアップシート参照		